

2012年5月28日
 学習院大学輔仁会アーチェリー部
 監督 小林 大介

2012年度関東学生アーチェリー男女リーグ戦報告

1 男子チームについて

1-1 男子リーグ戦1部Bブロック結果

- ・ 3勝2敗で、1部Bブロック5位

男子リーグ戦1部Bブロック星取表

Bブロック	日本体育	拓殖	学習院	日本工業	明治	一橋	勝	－	負
日本体育		○3945	○3969	○3976	○3995	○3921	5	－	0
拓殖	●3898		○3837	○3824	○3842	○3891	4	－	1
学習院	●3788	●3800		○3835	○3815	○3786	3	－	2
日本工業	●3802	●3779	●3804		○3769	○3789	2	－	3
明治	●3804	●3772	●3739	●3756		○3752	1	－	4
一橋	●3758	●3758	●3729	●3776	●3746		0	－	5

・ 第1戦 拓殖大学戦（4月1日）

学習院（3800） ● － ○ 拓殖（3837）

50mのスタートで風・緊張のため点差をつけられてしまった。その後、徐々に引き離され50m終了時点で46点のビハインドを背負った。相手校が50mベスト6平均で302.83点であったのに対し、本院は295.17点であり、1エンドに1点強足りない結果となった。しかし、30mに入り、本院は、射の張りやタイミングが良くなり、30mの平均だけ見ると、相手校を上回った（本院338.17点平均、相手校336.67点平均）。結果的には負けてしまい、王座進出は遠退いてしまったが、得るものがあった試合であった。

・ 第2戦 日本体育大学戦（4月8日）

学習院（3788） ● － ○ 日本体育（3969）

50mの点数は前回よりも伸びたものの（第2戦296.83点平均）、射のタイミング、リズム、強さは相手校の方が一枚も二枚も上であった。相手校のほぼ全員が50mで10点を狙って射てるのに対し、本院はまだそれに及ばない選手が多く、グルーピングの精度が違った。また、本院は外し（50mで7点、30mで8点）が目立ち、630点

前後で止まってしまう感があった。

・第3戦 一橋大学戦（4月15日）

学習院（3786） ○ - ● 一橋（3729）

勝つことはできたが、本院の3～6番目の選手で630点以上出せた者がおらず、平均点が619点平均であったのに対し、相手校の6人平均が619.83点であったことを考えると、本院の上位2名の活躍のためとすることができる。中間層の底上げが喫緊の課題となった。

・第4戦 日本工業大学戦（4月22日）

学習院（3835） ○ - ● 日本工業（3804）

本院、相手校とも一步も譲らない試合展開であった。お互いに集中力もモチベーションも非常に高い試合であった。しかし、相手校が僅かにミスを出す間、本院は目立ったミスを出さず、ミスを最小限に止め、集中力を持続し点差を拡げることができた。結果的にはチーム試合新を出すことができ、最終戦に向けて弾みをつけるともに大きな自信を持つに至った試合であった。

・第5戦 明治大学戦（4月29日）

学習院（3815） ○ - ● 明治（3739）

最終戦ということであったが、特に硬さはなく、良い状態で試合に臨むことができた。50m3回目でミスが出てリードを許したものの、その他は特に大きなミスもなく、相手校にリードを許すことはなかった。30mでは、射の張りがあり、またタイミングも良く、各エンドの選手8人平均で55点以上をキープすることができた。相手校が集中力を切らす中、終始集中を切らすことない試合運びで、有終の美を飾ることができた。

1-2 総評・展望

2012年度リーグ戦結果はリーグ第3位、これは、1992年以来の好成績である。

リーグ戦の点数を見てみると、本院は第3位で上位6名5試合平均3804.8点（1人あたり634.1点平均）であったが、昨年の第3位のチームの5試合平均は、明治3762.2点、中央3773.2点であった。今年の第5位の東洋の5試合平均が3776.4点であることを考えると、関東1部校のレベルは上がっていると言える。そのレベルが上がった一部リーグにおいて第3位に入賞できたというのは、大きな成果であると言える。

しかし、結果的には、目標としていた王座決定戦進出は果たせなかった。王座出場権を得た拓殖の5試合平均は、3858.4点（1人あたり643.1点）、本院とのチーム

平均点差は52点、1人あたり9点弱の差があり、選手1人あたり約1射分の差があることになる。王座出場のためには、この差を埋めなければならない。6エンドに均すと各エンド1点弱縮める必要がある。具体的には、50mでは51点超の平均水準、30mでは56点超の平均水準をチームでクリアできれば王座出場校に勝てる確率が格段に高まると分析できる。目標点数が具体的で実現可能性もあるので、来年に向けて邁進していきたい。

目標はである王座進出は果たせなかったものの、レベルが上昇している関東1部リーグでここまでの成績を残せたことは、第54代の幹部が中心にチームを創り上げる努力をしたからに他ならない。昨年のリーグ戦において、第53代幹部は点数的にもチームマネジメント的にもチームの支柱となっていたが、第54代の選手たちは、次期幹部として第53代幹部をよく支えていた。そうした下地があったからこそ、第54代がスタートして上手くチームを牽引することができたと考えている。スタート当初は問題点も多かったが、フォローし合ってチームを創ってくれた。特に、ミスをしたり、思う通りの射ができなくても、雰囲気や乱す行動は非常に少なく、お互いに声を掛け合い、励まし合って練習・試合に臨む場面が見られ、後輩への良い見本となったと言える。

しかし、彼らが、はじめから上手い選手であったかと言えば、そうではなく、1～2年生の時はスコアが伸びず、試合も応援に回ることが多かった。その中でも、コツコツ練習し、徐々に上達しレギュラーを勝ち取るようになっていった。そうした彼らだったからこそ、選手の気持ちも応援の気持ちも理解することができ、チームの和を創ることが出来なのかもしれない。また、入部したときから誰一人欠けることなく、引退まで過ごせたことは本当に良かったと思っている。弛まぬ努力やチームの和という第54代が残してくれた財産は、次の代も受け継いでくれるものと信じている。

第54代が残してくれた良き伝統を受け継ぎ、来年のリーグ戦に向けて、1年間射を磨き、目標達成のため励んで行きたい。

2 女子チームについて

2-1 女子リーグ戦2部Aブロック結果

- ・3勝2敗で、2部Aブロック第3位

女子リーグ戦1部Aブロック星取表

Aブロック	拓殖	東洋	学習院	成城	法政	東京農業	勝	-	負
拓殖		○2412	○2359	○2400	○2404	○2406	5	-	0
東洋	●2361		○2425	○2347	○2422	○2388	4	-	1
学習院	●2325	●2377		○2371	○2427	○2426	3	-	2
成城	●2289	●2322	●2316		○2378	○2295	2	-	3
法政	●2347	●2246	●2325	●2297		○2372	1	-	4
東京農業	●2269	●2327	●2283	●2279	●2291		0	-	5

・第1戦 法政大学戦（4月1日）

学習院（2427） ○ - ● 法政（2325）

50m序盤から本院らしい雰囲気を作り、波に乗ることができた。その結果、約半年ぶりにチーム試合新を出すことができた。リーグ戦直前に伸び悩んでいた3年生が試合新を出すことができ、リーグ戦初戦から自信の持てる試合となった。wしかし、30mでは、サイトを見つけるのは早かったものの、タイミングの良い射を継続させることができず点が伸びず、今後修正を要する課題となった。

・第2戦 東京農業大学戦（4月8日）

学習院（2426） ○ - ● 東京農業（2283）

有声応援禁止の試合会場であったが、選手・応援とも集中して試合に臨むことができた。全般に調子が上がっており、試合新を出す選手も多かった。30mについても、8人平均・上位4人平均とも前回の第1戦よりも上昇した（第1戦8人平均307.63点・上位8人平均320.25点、第2戦8人平均315.63点・上位8人平均322.75点）。

・第3戦 成城大学戦（4月15日）

学習院（2371） ○ - ● 成城（2316）

50mの出だしから差をつけることができ勝てたものの、全体的に射が小さく、射ち終わりの力強さもあまり感じられなかった。30mでは多少改善が見られるものの、伸び悩んでいる感があった（上位4人平均315.50点）。全体として終始自信なさそうな印象であった。射のポイントを絞っての練習を行なう等、次回に向けた修正が必要となった。

・第4戦 東洋大学戦（4月22日）

学習院（2377） ● - ○ 東洋（2425）

選考会におけるチーム点は、2461点であったが、試合で80点以上落としてしまい、自分たちのパフォーマンスができなかったという結果になった。50mでは接戦となったが、30m後半から雨が強くなる中、相手校が普段どおりの射を継続できたのに対し、本院は本来の自分たちの射を見失った感があった。押し手をしっかり残す、張りを持って射つことなど、基本的なポイントを抑えることができなかった。

・第5戦 拓殖大学戦（4月29日）

学習院（2325） ● - ○ 拓殖（2359）

敗れると上位の入替戦に進出できなくなるので、お互いに落とすことのできない一戦であった。風のある中での試合であったが、本院は50mのスタートに失敗し、リズムをつかめない選手が多かった。50mでは、お互いにミスが出る中、1点ビハインドで終えたが、30mでは、本院の上位の選手の点が伸びず、相手校はトップの選手が点数を伸ばしていったため、リードを広げられてしまった。集中を切らすことなく望みを捨てずに挑んだが、力及ばなかった。

2-2 総評・展望

昨年のリーグ戦で2部降格を喫し、1年間1部昇格を目標に練習に励んできたが、結果として2部Aブロック3位であり、目標を果たせなかったというのは悔しさを感じる場所である。

第1戦・第2戦と上位4名で2400点を超え、勢いに乗れるかとも思ったが、第3戦目以降、2400点を下回って第4戦・第5戦と落とせない試合で手痛い敗北を喫した。練習点が良くても試合で落とすときもあり、継続して点数を維持することの難しさが分かった。また、練習点では2,400点を超えているのに、試合で点数が出ないのは経験不足もあろう。

リーグ戦の結果を見ると、一昨年のチーム平均点2384.0点（596.0点平均）、昨年のチーム平均点2314.4点（578.6点平均）、今年のチーム平均点2385.2点（596.3点）であった。チーム点の平均だけ見ると、同程度の水準で推移していると言えるが、逆に言えば、少なくとも結果だけ見て言えば、大きなレベルアップが見られなかったと言えるかも知れない。と言うことは、このままの水準では、リーグ戦での勝利は覚束ない。特に、5戦通じて最高点が2427点、最低点が2325点と100点程度差があることを考えると、まずは良いときと悪いときの差を解消する必要がある。1部下位校のチーム平均が本院よりも低いからと言っても、安心して勝てるとは言えない。

また、射技面については、射のタイミングなどについては改善が見られるが、ま

だまだポンドも低く、力強く張りのある射ができるようになるには、努力が必要であると考えられる。特に、第 5 戦では矢が風に流され、思うようにグルーピングしなかった。

レベルアップのためには、まずは、練習量、矢数をかけることが必要であると思う。疲れてきて射が崩れるかも知れないが、そうした中でも一定に射つのが練習である。

来年こそは 1 部昇格を果たせるよう、1 年間練習に取り組んで行きたい。